

住むことと老いること

フィンランドにおける住宅、親子関係、ケア

高橋絵里香（千葉大学）

住む(reside)ことと老いることはどのように連動しているのだろうか。この大きな問いを考える上で忘れてはならないのは、近代以後の欧米社会において老いが自立／依存というスペクトラムのなかで理解されるという点である [cf. Kaufman 1994, Turner 1987]。だからこそ、年老いても自分の家に住み続けるということが、自立の象徴として施設介護と対立的に語られてきた。

こうした自立／依存の対立軸を居住の問題として考える上で参考になるのが、ハウジング研究を提唱したジム・ケメニーの議論である [ケメニー 2014]。ハウジング研究とは、世帯と関連付けられる社会的過程としてのホームではなく、住宅 (dwelling) という実体的な対象に焦点を合わせ、「住宅の供給と利用を構成する社会、政治、経済、文化等々の制度・関係について研究」[同上 2014: 24]する領域である。

ケメニーの議論で興味深いのは、住宅の保有形態と社会保障の集合度は連関していると考えた点である。持ち家率の高い社会では政府による福祉支出の割合が大きくなり、貸家に暮らす人の多い社会では政府支出は少なくなる。スウェーデンに代表されるいわゆる北欧型福祉国家は持ち家率が低く社会保障が進展した社会であるように、人々は成人期にも借家住まいを続けることで、国家にある程度依存し続けるというわけである。

ケメニーの分類は、居住にこそ私事主義／協同主義という社会の支配イデオロギーが社会制度の構成、維持、変更において中心的な役割を果たすという見解に基づいている。持ち家率と社会保障の集合率が必ずしも反比例するわけではないことは、ケメニー自身が理論の修正を試みている点からも明らかである。また、例えばフィンランドの持ち家率は日本よりも高い一方で社会保障は遥かに進展しているように、反証にも事欠かない。

とはいえ、「社会に埋め込まれた住宅」というハウジングの視点は、住むことのマテリアルな側面に注目し、それを都市空間や市場といったマクロな社会構造と結び付けた点において重要である。特に、私事主義／協同主義という福祉国家のイデオロギーと、自立／依存という老いの測定基準となってきた発想の、ハウジングという現象を介した接続に着目することで、住むことと老いることの連動する様態に接近する可能性を孕んでいる。

そこで本発表は、フィンランド南東部の一自治体を舞台として、生涯を通じた居住形態の変遷と住居をめぐる世代間の扶助を記述していく。住居を所有するということは、高齢者にとってどのような主体的かつ実践的な意味合いを持つのだろうか。それはどこまで自立することとイコールで結ばれるのだろうか。そして、住むことと老いることはどのように連動しているのだろうか。

ケメニーのハウジング論の舞台となっているスウェーデンと比べ、フィンランドの持ち家率が高い。これは、スウェーデンにおいては第二次大戦後に協同住宅を建設する計画が推し進められたのに対し、フィンランドでは国が提供する一戸建てを国が提供するローン計画に基づいて購入してきたからである [Ruonavaara 2017]。その意味で、協同主義的な住居所有が推し進められてきたと言えよう。

発表者の調査地では、高齢期に一戸建てから高層住宅へと持ち家を買替えていくケースが多い。さらに、購入された住居は子世代へと単純に継承されるわけではなく、複雑な軌跡を取る。このような小さな世帯で住居を所有、維持、管理する場合、加齢と共に外部からの多種多様な手助けを必要とするようになっていく。手助けの内容は住宅の形式によって多様であり、一戸建て、高層住宅、保護住宅においてそれぞれ異なる。

老年期の人間関係についてのインタビュー調査からは、住宅に暮らし続けるための手立ては、多くの場合において公的なサービスだけではなく、子世代、隣人、地域のアソシエーションといった様々なリソースから得ていることが明らかになった。こうした自立／依存の入り混じる様態と、次の居住形式への移行時にこれまでの住宅をどのように始末していくのか、という具体的な記述から、福祉国家における老年の理解の精緻化をめざしていく。

【参考文献】

- Kaufman, Sharon, 1994, The social construction of frailty. *Journal of Aging Studies*, 8(19): 45-58.
- ケメニー、ジム、2014、『ハウジングと福祉国家 - 居住空間の社会的構築』、祐成保志（訳）、新曜社。
- Ruonavaara, Hannu, 2017, Retrenchment and social housing: The case of Finland. *Critical Housing Analysis*. 4(2): 8-18.
- Turner, Bryan S., 1987, Ageing, Dying and Death, In *Medical Power and Social Knowledge*, Bryan S. Turner (ed.), Sage, pp. 111-130.

キーワード フィンランド、住宅、高齢者ケア、世代間関係、ライフコース